

# 文化労働・健康福祉部会

目標値未達成の要因について

資料2 目次

法人名	ページ数
文化労働・健康福祉部会	
(公財)大阪府国際交流財団	—
(株)大阪国際会議場	—
(財)大阪国際平和センター	—
(公財)大阪府育英会	1
(公財)大阪府保健医療財団	2
(公財)西成労働福祉センター	5
(公財)大阪府文化財センター	6

【目標値未達成の要因について】

法人名	公益財団法人 大阪府育英会
24年度の 成果測定指標	法的措置者における返還者率 (法的措置者返還者数 / 法的措置者数)
24年度の目標値	43.5%
24年度目標の達成状況	43.2%
未達成の要因	<p>・ 3月 18 日に 832 件の支払督促申立等を実施したが、実施から年度末まで期間が短かったことから、返還者率が低くなったもの。</p> <p>なお、申立後約 1 ヶ月経過した 4/22 時点で集計すると 43.7%となっており、目標値は達成している。</p> <p>H25.3 月末時点 43.2% (8,114/18,774) (4/22 時点 43.7% (8,205/18,774))</p>
今後の改善方策	<p>・ 今後、年間スケジュールの中で、より効果的な回収を図るため、適宜、支払督促申立等の実施時期を検討していく。</p> <p>なお、支払督促申立等実施後、返還のないものについては、積極的に借用人および連帯保証人に対する電話・文書・訪問による督促に取り組んでいく。</p> <p>・ また、滞納の長期化を防止するため、滞納の初期段階から法的措置を積極的に実施し、返還金の確保および滞納金の抑制を図る。</p>

【目標値未達成の要因について】

法人名	公益財団法人 大阪府保健医療財団			
24年度の 成果測定指標	乳がん検診受診者数			
24年度の目標値	22,400人			
24年度目標の達成状況	21,892人			
未達成の要因	<p>・女性医師の確保により、デジタル検診車の稼働回数を増やすこととしたが、派遣元の大学医学部との話し合いで月2回程度しか車検診に従事していただくことができず検診車の稼働を増加させることができなかった。</p> <p>また、受診者数が比較的多かったA市において、1回あたりの受診者数及び検診回数が大幅に減少し、23年度実績（21,974人）と同水準に留まった。</p>			
	(A市の状況)			
		受診者数	回数	1回あたり
	22年度	1,453人	36	40
	23年度	574人	21	27
24年度見込	527人	16	33	
今後の改善方策	<p>・理事長、担当部長が大学に出向き、大学医学部等に依頼するほか、雑誌広告の方法も使って、当面月3回程度車検診に出務していただく女性医師の確保に努める。</p>			
	<p>・また、1回あたりの受診者数及び検診回数が大幅に減少した市の検診回数については、他市等に日程を振り分けるなど日程調整などによる改善を行う。</p>			

【目標値未達成の要因について】

法人名	(公財)大阪府保健医療財団
24年度の成果測定指標	精検受診率(年度実績)
24年度の目標値	84.5%
24年度目標の達成状況	83.3%
未達成の要因	<p>当センターにおける精検受診率は国の許容値(乳がん検診は80%以上、それ以外は70%以上)を満たしている。しかし、大腸がん検診の受診率が74.5%にとどまり、全体の受診率は前年度82.8%より伸びたものの、平成24年の目標値である84.5%を達成することができなかった。</p> <p>精検受診率を達成できなかった要因は、大腸がんについて、当センターでの精検数に限りがあり、当センターで全体の6.8%しか実施できず、未受診者に対する受診勧奨の徹底ができなかったこと、精検結果の把握が困難であったことである。</p> <p>また、職域での精検受診率が胃がん検診80.7%、肺がん検診80.8%と地域ほど伸びなかったことが考えられる。</p>
今後の改善方策	<p>・大腸がん検診の精検受診率は地域77.5%、職域が62.8%であるので、大腸がん精検受診率の向上のための対策として、</p> <p>① 精検受診率の低い市町村に対しては、大阪府から受託している精度管理センターの事業を通じ、要因の分析を行うと共に受診率向上のための支援を行う。(啓発冊子の送付・受診者への啓発ツールの作成)</p> <p>② 大腸がん検診において、施設検診受診者を対象に要精密検診者の結果説明を実施し、希望精検機関に紹介することで、精検受診を促し、精検結果が把握しやすい体制を整える。</p> <p>③ 職域検診における精検未受診者について、検診受診時からの、がん検診に対する知識の普及を図る。</p>

【目標値未達成の要因について】

法人名	公益財団法人 大阪府保健医療財団
24年度の 成果測定指標	利用者満足度の向上
24年度の目標値	87.0
24年度目標の達成状況	84.3
未達成の要因	<p>平成 24 年3月の大阪府立健康科学センターの廃止に伴って大阪がん予防検診センターと統合し、4 月から新しく大阪がん循環器病予防センターとして発足した。統合に伴い、旧健康科学センターが実施していた循環器健診受診団体約 50 団体、約 3,000 人が新センターを利用することとなった。</p> <p>そのため、1 日の利用者数が増加し、業務が繁忙となるとともに、受診者の待ち時間の増加を招き、診察、検診等における説明に余り時間を割くことができず、受診者の満足度が低下する状況となった。</p>
今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートの内容から受診者が不満と感じているのは、待ち時間が長いことが多いので、健診の流れを分析し、待ち時間を解消することにより、利用者の満足度の向上に繋げる。</li> <li>・受診者が来られた時に迷わないよう、1階の受付担当を1名増員し、積極的に案内をする。</li> <li>・各フロアに案内担当の看護師等を配置し、的確に受診できる体制を作る。</li> <li>・その他の課題については、担当部署で討議を行い、一つ一つの具体的対策を講じることとした。</li> </ul>

【目標値未達成の要因について】

法人名	公益財団法人西成労働福祉センター
24年度の 成果測定指標	労働者相談件数
24年度の目標値	20,000 件
24年度目標の達成状況	18,305 件
未達成の要因	<p>平成 24 年度より、組織を改編し、総合相談窓口を設置したことにより、相談業務の効率化が図られ各種相談窓口での重複受付が減少。さらに、労働者の就労環境の向上のため事業所指導の取り組みを強化したことによりトラブルの要因が減少し、結果的に相談件数の減少につながったことにより、目標値である 20,000 件の相談件数に達しなかった。</p>
今後の改善方策	<p>平成 25 年度は、「センターだより」(月 1 回)や「労働者べんりちょう」の内容の充実を図るとともに、寄り場及び窓口、簡易宿泊所や地域 NPO 団体等を介し、労働者に配布することにより、相談支援サービスの周知向上に努めるとともに、新たに地域に流入した労働者や当センターを知らない方に相談サービスを知っていただくため、登録事業所へのセンターだよりの配布や、地域団体の協力を得、当センターの案内を各団体の広報紙等に掲載してもらうよう働きかける。</p> <p>あわせて、平成 25 年度より、当センターの支援内容を知らない新規の地域流入労働者を対象に労働安全意識の向上や不安定な就労経路からくるさまざまな労働問題の事例を紹介する就労支援のための各種講座を開催する。このため、早朝の寄り場等において参加を呼びかけ、講座受講を通じセンターを身近な相談窓口として活用してもらうよう誘導し、労働者相談件数の増加を図る。</p> <p>*各種講座…地域労働者（特に新規流入者や建設業での就労経験の浅い労働者）に対し、窓口求人紹介後及び技能講習選考会後において、実施。</p> <p>例：建設業入門講座、就労する前に知っておこう講座、社会保険・建設業退職金共済に入ろう、就職活動支援講座等</p>

【目標値未達成の要因について】

法人名	公益財団法人大阪府文化財センター
24年度の 成果測定指標	施設利用者等満足度 ①弥生文化博物館 博物館入館者数 ①弥生文化博物館 ③日本民家集落博物館 正味財産増加率
24年度の目標値	施設利用者満足度①71【95】 博物館入館者数①59,300人 ③41,000人 正味財産増加率0.2%
24年度目標の達成状況	施設利用者満足度①68【93】 博物館入館者数①57,618人 ③39,123人 正味財産増加率△1.2%
未達成の要因	◎施設利用者等満足度 特別展等の展示テーマについて、学術性の高い展示は、一般の方々から十分な評価を得られにくく、館のテーマから離れた展示は逆に専門性を求める方々からの評価を得られにくい結果となった。 ◎博物館入館者数 ①前半は好調であったが、2、3月の入館者数が伸び悩み、春休み企画を縮小した影響もあった。 ③例年の実績に比べて、元々今年度の目標数値は過大気味であり、昨年度実績は上回ることができたものの目標値には及ばなかった。 ◎正味財産増加率 今年度は、発掘調査の拠点事務所の建物の除却及び棚卸資産の評価損が発生したことにより、正味財産が減少した。
今後の改善方策	◎施設利用者等満足度 展示テーマや構成上の見せ方の工夫を行うことで解消できることは速やかに改善していく。 専門的な展示も、学術的な水準を下げるのではなく、やさしくわかりやすい解説パネルや解説シートを加えることによって多くの方々に満足してもらうよう方策を考えていきたい。 ◎博物館入館者数 魅力ある展示テーマはもちろんのこと、今まで以上に魅力ある行事を組み入れていきたい。 また、体験学習メニューを充実させ、小学校等の団体受入れを促進するなどして利用者増に繋げたい。 ◎正味財産増加率 今年度は特別な事由が発生したが、今後は適正な事業量の確保に努め、公益法人の収支相償の原則に従い健全な財政状態の維持に努める。